

常磐公園植栽計画

市民ワークショップ (第4回)

平成27年1月27日(火)
旭川市役所 旭川市保健所1階講座室

主催：旭川市

0. 本日のプログラム

- ・ 18:30 開会・挨拶 (5分)
- ・ 18:35 オリエンテーション (5分) 現在
- ・ 18:40 資料説明 (5分)
- ・ 18:45 グループ討議 (25分)
- ・ 19:10 意見発表 (15分)
- ・ 19:25 全体討議 (30分)
- ・ 19:55 今後の予定 (5分)
- ・ 20:00 閉会

1. オリエンテーション

- 1-1 ワークショップの目的
- 1-2 ワークショップの全体スケジュール
- 1-3 前回ワークショップの振り返り
- 1-4 前回ワークショップで出た意見①
- 1-5 前回ワークショップで出た意見②
- 1-6 今日の進め方

1. オリエンテーション

1-1. ワークショップの目的

常磐公園のみどりをより良くして
行く方法を考える。

将来の常磐公園を考え…

どんなみどりを復元するため

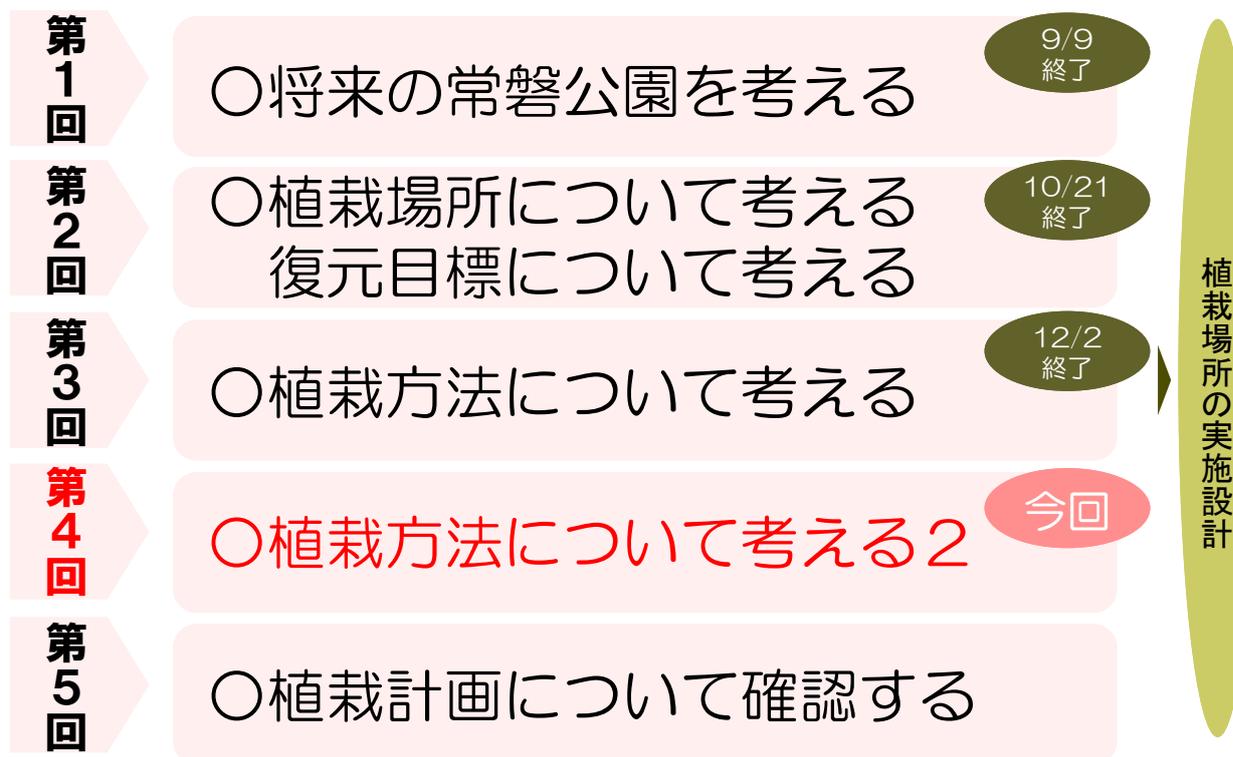
どこに、
どんな樹種を、
いつ、
どうやって植えるか。

植栽計画

について考える。

1. オリエンテーション

1-2. ワークショップの全体スケジュール



1. オリエンテーション

1-3. 前回ワークショップの振り返り

日時 : 平成26年12月2日(火) 18:30~20:15

会場 : 旭川市保健所1階講座室

参加者 : 地域住民 12名、 専門家 3名
事務局 7名、 計22名

討議テーマ: 合成平面図(試案)の植栽方針・テーマ

1. オリエンテーション

1-4. 前回ワークショップで出た意見①

- 色彩豊かで、バリエーションをもたせる植栽計画だと思う。
- この案で良いと思いますが、「文学の小径」はかたいので「いこいの小径」だとか「四季の小径」などやわらかい方が良いと思う。
- 合成案で！但し在来種のみで構成すべき(外来種は要らない)。
- 針葉樹はあまり使って欲しくない。
- サクラを階段周辺に植える必要がわからない。周辺の景観と合わない、他のゾーンに点在させてはどうか。
- ツル類などは都市公園には必要なし、樹木にとっては害あるのみである。
- 種類にもよるが、多様性の観点からも、つる植物が少しくらいあってもよい。
- 種からその場で芽吹き成長させるゾーンがない。
- 河原に最も多いヤナギが一切ないのでは、公園利用したりしても市民が郷土の木を知る機会が減ってしまうと思う。
- 「動物配慮」の意識は必要だと思う。
- 「動物配慮ゾーン」というが、全てにおいて生態系に配慮して欲しい。
- 動物といっても多種多様であり、対象種を絞って案を作らないと焦点がボケてしまう。
- 動物は植物と違い移動するので、ゾーンとして配慮する場所を設定できない。

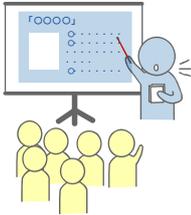
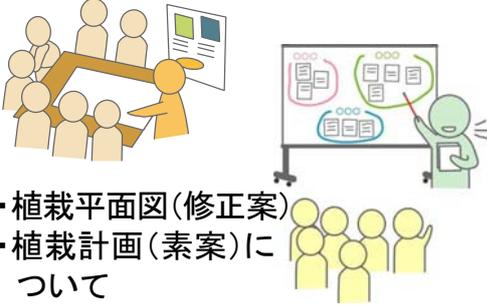
1. オリエンテーション

1-5. 前回ワークショップで出た意見②

- 木に来る小動物や鳥、昆虫など動植物の解説プレートがあるとよい。
- 安全管理の面からも大木のドロノキは切ったほうがよい。
- 樹木の移植は費用がかかる。減らせないか。新植を増やした方がよい。
- きちっとしたゾーニングは無理であり、具体的な樹種、花、色(四季別でも良いが)を示したほうがわかりやすい。
- ゾーン区分をした方がわかりやすい。
- パブリックコメントも充分行われていたと思う。今回参加された方もそういった認識は充分あったと思う。
- 個々によって要望が違う。それを最終的に一つにまとめるのは難しい。今回ワークショップの限られた人数の中でもいろいろな考え(案)が出たのでそれをいくつか取り入れた「合成試案」で良いかと思う。
- ワークショップの進め方は、今回は良いと思う。
- 今日までの進行に納得していない。ワークショップの今日までの案を市民・団体に提示した上で先に進むべきだと思う。
- 緩斜面化そのものに反対です。白紙に戻して市民の声を聞いてほしい。
- あまり植物について詳しくない者に対して専門家に良くないとされると、次は何も言えなくなります。ワークショップを設置することが必要なのでしょうか？

1. オリエンテーション

1-6. 今日の進め方

5分	5分	70分	
オリエンテーション	説明	意見交換	総括
18:35~18:40	18:40~18:45	18:45~19:55	19:55
今日の ・目標 ・進め方 の説明 	・植栽計画 (素案) について説明 	グループに 分かれて意 見交換  全体で発 表・意見を とりまとめ ・植栽平面図(修正案) ・植栽計画(素案)に ついて	今後 の 予定 等

2. 植栽計画(素案)について

- 2-1 植栽計画(素案)基本方針①
- 2-2 植栽計画(素案)基本方針②
- 2-3 植栽平面図(修正案)
- 2-4 修正案植栽種
- 2-5 修正案添景樹
- 2-6 公園全体の計画(案)

2. 植栽計画(素案)について

2-1. 植栽計画(素案)基本方針①

■ 全体テーマ:

「百年かけて育む、周辺と調和した彩り溢れる空間」

■ 基本方針(1/2)

○みどり景観への配慮

- ・中低木を含めた多様な樹種を混植し、周辺景観と調和した階層構造のある樹林を形成。
- ・密植を避けて適度な間隔で植栽し、下草が生育できる明るさを確保。
- ・あずまや周辺や園路沿いを中心に、花や紅葉の美しい樹種を植栽し、樹木に親しみ、楽しめる空間とする。
- ・成長の早い樹種を混植し、みどりの早期回復を図る。将来的な伐採管理も計画する。

2. 植栽計画(素案)について

2-2. 植栽計画(素案)基本方針②

■ 基本方針(2/2):

○地域性の確保

- ・移植や新植する樹種は郷土種を基本とする。外来種の保全木については、周辺に更新木(郷土種)を植栽する。

○動物・生態系への配慮

- ・全体に動物の食樹や実のなる木等を植栽して、生態系に配慮する。配慮が植栽範囲のみで不足すると考えられる場合には、公園全体での対応を検討する。
- ・動物のねぐら等の利用があり、同時に倒木の危険性のある大径木は、当面の間は極力保全する。但し、監視を継続するとともに、安全性に配慮して周囲は立入禁止等の措置をとる。

2. 植栽計画(素案)について

2-3. 植栽平面図(修正案)

○第3回までの市民ワークショップの意見を踏まえて修正

植栽直後のみどりのボリュームを確保するために生長の早い樹種を混植

園路沿いには花・紅葉の美しい低木を植栽

ゾーン分けしない

サクラを分散して混植

季節感のある花や紅葉の美しい中高木を混植



全体に動物の餌となる実の付く樹種を配植

市民の花壇を設置

自然更新ゾーンを設置

植栽前の半分程度の生育密度とし密植しない。

項目	本数(低木は含まず)	
	植栽直後	20-30年後
保全木	21	10
移植木	24	24
更新木	44	38
計	89	72
生育密度	287本/ha	232本/ha

※植栽後20~30年程度経過し、保全木のうち危険木や外来樹種、生長の早い樹種を除去した状況

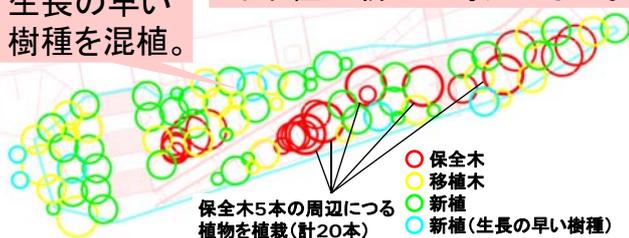
2. 植栽計画(素案)について

2-4. 修正案植栽種

	保全木	移植木	新植
基調樹種	ハルニレ/ヤチダモ/カツラ/ドロノキ/イタヤカエデ/イチョウ/ヨーロッパアカマツ	ハルニレ/ヤチダモ/ミズナラ/イタヤカエデ	トドマツ/シナノキ/キハダ/オニグルミ 【生長の早い樹種】シラカンバ/ヤナギ類
添景樹種	【高木】イチイ/エゾヤマザクラ/モミジ/サワラ/キササゲ/スモモ	【高木】イチイ/ナカマド/ズミ/ヤマグワ/ハシドイ 【中木】ツリバナ	【高木】エゾヤマザクラ/エゾノウミズザクラ/アズキナシ/キタコブシ/ハクウンボク/ミズキ/ヤマモミジ/ハウチワカエデ/イヌエンジュ 【中木】タニウツギ/オオカメノキ/カンボク/ナツハゼ/マユミ
その他			【低木】エゾムラサキツツジ/ムラサキヤシオ/ニシキギ 【つる】ツルアジサイ/イワガラミ/ツルマサキ

生長の早い樹種を混植。

多様な樹種を植栽。外来種は新たに導入しない。

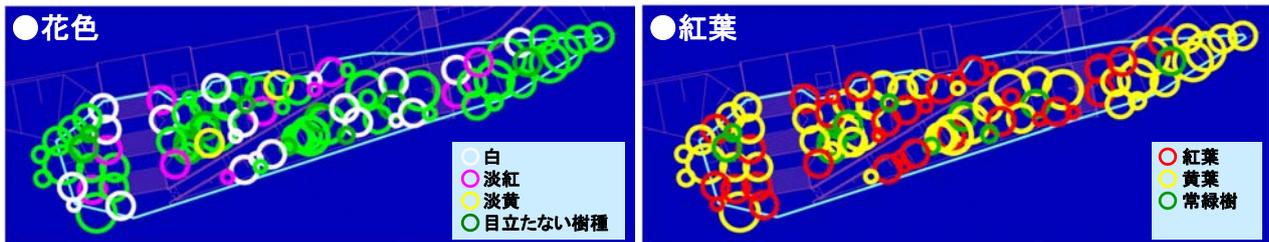


※青字は旭川における外来種

つる植物を混植

2. 植栽計画(素案)について

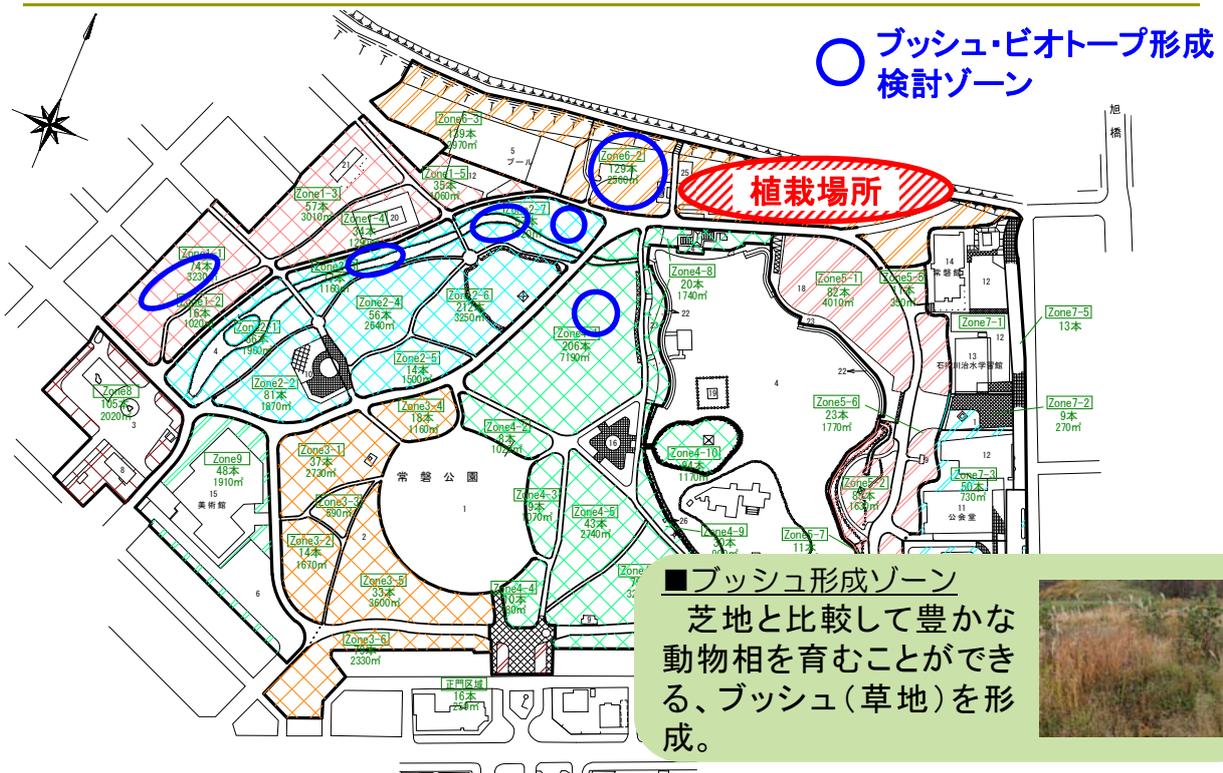
2-5. 修正案添景樹



	早春	春	初夏～夏	秋(紅葉)
高木	白: キタコブシ 淡紅: エゾヤマザクラ	白: エゾノウワミズザクラ ナナカマド アズキナシ ズミ スモモ	白: ハクウンボク ミズキ ツルアジサイ イワガラミ	紅葉: ヤマモミジ ハウチワカエデ ナナカマド アズキナシ エゾヤマザクラ 黄葉: イチョウ シラカンバ イタヤカエデ カツラ ヤマグワ他
中低木	紫: エゾムラサキツジ	白: オオカメノキ 淡紅: ムラサキヤシオ	淡紅: タニウツギ 白: カンボク	紅葉: ツリバナ マユミ カンボク オオカメノキ ニシキギ ナツハゼ

2. 植栽計画(素案)について

2-6. 公園全体の計画(案)



3. 意見交換してほしいこと

植栽計画第4回市民ワークショップ 討議事項

- 植栽平面図（修正案）について

